

## 令和 6 年 2 月の解説（週間天気予報）

### 【2 月の天候状況】

上旬は、期間の中頃にかけて低気圧や前線の影響を受けやすかった東・西日本と沖縄・奄美では、曇りや、雨や雪が降った所が多かった。5 日から 6 日にかけて西・東日本太平洋側沿岸付近を低気圧が発達して東進したため、東・西日本を中心にまとまった雨や雪が降り、東日本太平洋側を中心に平地でも大雪となった。このため、旬降水量は西日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多く、旬間日照時間は西日本太平洋側でかなり少なかった。また、期間を通して冬型の気圧配置が弱く、低気圧の影響が小さかったため、旬降水量は北・東日本日本海側と北日本太平洋側で少なく、旬間日照時間は北日本日本海側と北日本太平洋側が多かった。沖縄・奄美では、冬型の気圧配置が弱く、低気圧の影響が一時的だったため、旬間日照時間が多かった。気温は、寒気の影響が弱く、暖かい空気が流れ込んだ西日本と沖縄・奄美でかなり高く、東日本で高かった。

中旬は、冬型の気圧配置が弱く、全国的に寒気の影響を受けにくかった。また、移動性の高気圧に日本の南から覆われて暖かい空気に覆われた時期や南から暖かい空気が流れ込んだ時期があった。これらのため、旬平均気温は全国的にかなり高く、特に、北日本、東日本と西日本ではそれぞれ平年差+4.8℃、+5.2℃、+4.3℃で、1946 年の統計開始以降 1 位となった。また、旬間日照時間は北・東日本日本海側と北日本太平洋側でかなり多く、西日本日本海側が多かった。沖縄・奄美では高気圧に覆われやすかったため、旬降水量はかなり少なく、旬間日照時間はかなり多かった。

下旬は、シベリア高気圧が北から張り出す一方、本州の南岸には低気圧や前線が形成されやすかった。このため、北日本では寒気の影響を受けやすかった一方、東・西日本では、短い周期で低気圧や前線の影響を受け、北・東日本太平洋側では雪が降った所もあった。26 日から 27 日にかけては、日本の東で発達した低気圧の影響で、北日本太平洋側で大雪となった所があった。これらのことから、旬降水量は東・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側でかなり多く、旬間日照時間は東・西日本日本海側と西日本太平洋側でかなり少なかった。沖縄・奄美では、期間前半に暖かい空気に覆われやすかったため、旬平均気温が高かった。

### 【2 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均)は、例年値(注)よりも 9 ポイント高い 82%でした。地方別の適中率では、すべての地方で例年値を上回りました。最高気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.5℃小さい 1.8℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.2℃小さい 1.8℃で、東北、関東甲信で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁 H P (予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【4 月の週間天気予報の利用にあたって】

4 月は、短い周期で低気圧が通過し、天気が変わることの多い時期です。暖かい日が多くなる一方で、低気圧の通過後に冷たい空気が流れ込んで前日より気温が大きく下がることもあり

ます。寒暖の差が大きい時期ですので、週間天気予報で気温変化を把握し、健康管理や農作物の管理等にお役立てください。